

ホタテガイ採苗速報

生殖巣重量は平年より軽い状況

令和5年1月19日から20日にかけて湾内7地点で養殖2年貝の成熟度調査を、令和5年1月19日に東湾2地点で地まき貝の成熟度調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ホタテガイ成熟度調査結果

養殖2年貝の生殖巣指数は、西湾平均17.6、東湾平均20.8とそれぞれの平年値（平成5～令和4年の同時期の平均値）17.2、21.2とほぼ同じ状況です（図1、2）。ただし、生殖巣重量は7地点中5地点で平年より軽い状況です。異常貝率は、西湾では青森市奥内で26.7%と高い状況ですが、その他の地区ではほとんど見られません。東湾の異常貝率は平均17.8%と平年値4.6%よりかなり高い状況です。なお、この異常貝率にはイソギンチャク類およびサンカクフジツボの付着による割合が含まれます。各地の測定結果は表1のとおりです。

地まき貝の生殖巣指数は17.5と平年値14.5より高い状況です（図3）。異常貝率は16.7%でした。測定結果は表2のとおりです。

2 海況

15m層の1月第4半旬平均水温は、青森ブイと東湾ブイでやや高く、平館ブイで平年並みとなっています。

3 今後の見込み

成熟は全湾で進んでいます。ただし、生殖巣重量は平年より軽く、今後の産卵数が少なくなる可能性があります。詳しくは裏面をご覧ください。

産卵時期を含め、今後の情報を参考に産卵が不調となった場合に備えて採苗器の数や中身の流し網を2つに増やすなどの準備をしてください。

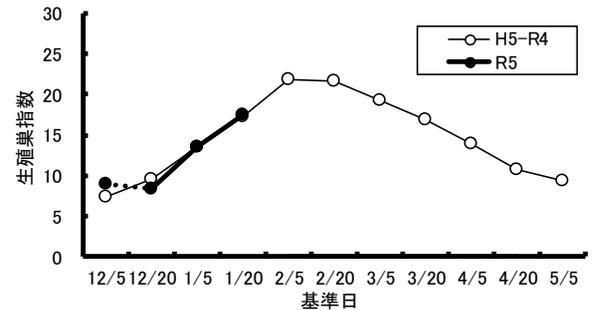


図1 養殖2年貝の生殖巣指数の推移(西湾平均)

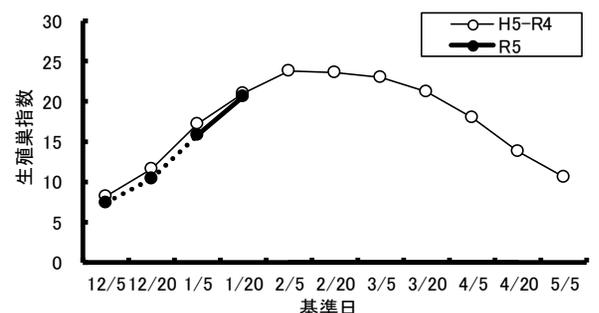


図2 養殖2年貝の生殖巣指数の推移(東湾平均)

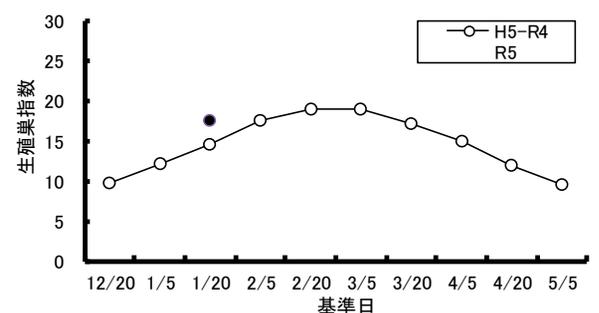


図3 地まき貝の生殖巣指数の推移(東湾平均)

※調査地点が1地点の場合は破線。

表1 垂下養殖2年貝の測定結果(調査基準日 1月20日)

調査地点	調査日	殻長 (cm)	全重量 (g)	軟体部重量 (g)	軟体部指数	生殖巣重量 (g)	生殖巣指数	へい死率 (%)	異常貝率 (%)
蓬田村	1月20日	10.1 (10.1)	94.6 (110.6)	41.1 (42.9)	43.4 (38.8)	7.2 (6.9)	17.2 (15.5)	12.2	3.3 (8.8) 【0.0】
青森市奥内	1月19日	9.6 (10.3)	88.9 (119.6)	31.5 (42.3)	34.9 (35.3)	5.9 (8.0)	18.2 (18.2)	28.6	26.7 (7.9) 【16.7】
久栗坂実験漁場	1月19日	10.1 (11.0)	114.6 (149.5)	50.3 (61.5)	43.9 (40.9)	9.5 (12.0)	18.8 (19.4)	2.6	3.3 (8.3) 【3.3】
平内町浦田	1月19日	9.5 (9.8)	91.7 (102.7)	35.6 (41.0)	38.8 (39.8)	5.8 (6.5)	16.0 (15.4)	16.2	0.0 (6.6) 【0.0】
西湾平均		9.8 (10.4)	97.5 (123.5)	39.6 (48.1)	40.3 (38.7)	7.1 (8.7)	17.6 (17.2)	14.9	8.3 (8.0)
野辺地町	1月20日	10.2 (10.6)	116.4 (135.2)	47.5 (59.5)	44.3 (44.0)	10.5 (13.7)	22.1 (23.4)	30.1	13.3 (2.2) 【0.0】
むつ市	欠測								
川内町	1月19日	10.0 (9.7)	106.3 (102.9)	46.1 (44.3)	43.2 (41.6)	7.8 (8.6)	16.9 (18.8)	47.4	16.7 (5.1) 【0.0】
川内実験漁場	1月19日	10.6 (10.4)	133.3 (125.2)	62.4 (56.1)	46.7 (44.7)	14.5 (12.6)	23.3 (22.2)	7.1	23.3 (5.1) 【0.0】
東湾平均		10.3 (10.1)	118.7 (116.6)	52.0 (51.4)	44.7 (43.5)	10.9 (11.0)	20.8 (21.2)	28.2	17.8 (4.6)
全湾平均		10.0 (10.2)	106.5 (119.7)	44.9 (49.5)	42.2 (41.1)	8.7 (9.8)	18.9 (19.1)	20.6	12.4 (6.6)

(): H5-R4の平均値

【】: イソギンチャクおよびサンカクフジツボによる異常貝率

表2 地まき貝の測定結果(調査基準日 1月20日)

調査地点	調査日	殻長 (cm)	全重量 (g)	軟体部重量 (g)	軟体部指数	生殖巣重量 (g)	生殖巣指数	異常貝率 (%)
むつ市	1月19日	10.3 (10.7)	150.9 (135.7)	60.4 (56.0)	40.1 (41.2)	11.2 (9.1)	18.6 (15.6)	23.3
川内町	1月19日	10.0 (10.3)	115.1 (122.9)	48.4 (49.4)	42.2 (40.0)	8.0 (7.5)	16.4 (14.7)	10.0
東湾平均		10.1 (10.4)	133.0 (124.4)	54.4 (50.3)	41.2 (40.3)	9.6 (7.7)	17.5 (14.5)	16.7



①



②

養殖2年貝は川内実験漁場を除く6海域では殻長が平年よりもやや小さく、軟体部重量は軽い状況です（表1）。それに伴い生殖巣重量も軽い状況であることから、親貝1枚あたりの産卵数が平年より少なくなる可能性があります。

また、へい死率が西湾、東湾ともに高い状況です。さらに、東湾では異常貝率がかなり高く（表1）、今後もへい死が起きることが危惧されます。産卵までに大規模なへい死が起きると、親貝が不足します。

なお、秋季養殖ホタテガイ実態調査時の親貝数は1億165万枚で、採苗不良年であっても採苗器1袋当たり2万個の稚貝が確保できる親貝数の目安（1億4千万枚）より少なくなっています。親貝数が少ない上に、1枚あたりの生殖巣重量が軽いことから、ラーバ数が少なくなる可能性があります。